高等学校用

【様式】

令和8年度　学校マネジメントシート

学校名(　　南伊勢高等学校　　)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい教職員の姿	○小規模校の利点を活かし、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の個性を最大限伸長させるとともに自らも成長し続ける教職員 ○コンプライアンスを遵守し、地域社会の一員として地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒・保護者＞ 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現 ＜地域社会＞ 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成 ＜中学校＞ 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成 取組内容の中学生及びその保護者への浸透	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜保護者＞ 学力向上。確かな進路保障 学校との信頼関係 ＜町・町教育委員会＞ 地元地域の活性化を担う人材育成 生徒の進路保障 ＜地元企業等＞ 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成 ＜地域活動団体＞ 生徒による地域の活性化への貢献	＜保護者＞ 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力 ＜町・町教育委員会＞ 地元中学校との連携を円滑に進めるための協力。地元への就職支援 ＜地元企業等＞ インターンシップ等教育活動への協力 地元企業への採用増加 ＜地域活動団体＞ 生徒が活躍できる多様な機会の提供

(3)前年度の学校関係者評価など		・ヘルメットの着用徹底が不十分なため、啓発活動を行い、着用率を向上してほしい。また、交通事故防止のために通学路の環境整備も地域へ要望していく。 ・防災等非常時の対応力の強化のために、ハザードマップ等を確認し、様々な災害を想定した判断を伴う避難訓練を行う必要がある。 ・基礎力向上の達成率について、背景要因を整理し、現状を踏まえ、原因分析を行い、評価サイクルを確立していく必要がある。 ・生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう、表面化しない困り感の早期発見やスクールカウンセラー等の活用を積極的に行ってほしい。 ・高校生が地域と関わる活動を通して、地域が元気になるだけでなく、成果を発表する場をつくることで、生徒の自己肯定感を高める機会にもなっている。今後とも地域と連携した活動を行い、積極的に情報の発信をお願いしたい。 ・教職員数が減り、負担増が見込まれるなか、やりがいを持って継続的に業務が行える体制づくりが必要。生徒数も減少するなかで、学校行事の在り方も考えていかなければならない。
(4)現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。 また、福祉活動や「出前図書館」など地域と連携した取組を推進している。 今後、こういった取組をさらに充実させることにより、生徒一人ひとりの成長を促し、希望進路の実現に努める必要がある。
	学校運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、ボランティア活動・地域行事への参加等さまざまな取組を行い、地域から一定の評価を得ている。 今後さらに、学校の取組を中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。 教職員数の減少を受け、様々な校内組織の見直しを行う必要がある。また、生徒数も減少していくなかで、学校行事のあり方を考えていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力向上と差別をなくす実践力を育む。 ・高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる力を育む。 ・個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行う。
学校運営等	・地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教職員の一層の資質向上に取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○目的意識を明確にもち、自己実現に向けて意欲的に取り組める者 ○体験学習など、地域に根ざした教育活動に積極的に取り組む意欲のある者 ○スポーツ・文化活動やボランティア活動または生徒会活動に積極的に取り組む意欲のある者

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

高等学校用

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	（1）基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。 【活動指標】日頃から授業規律の徹底を図り、学び直し教材を利用した学習を行うとともに、基礎力診断テストを1・2年生対象に年2回、3年生対象に年1回実施する。 【成果指標】基礎力診断テストによる基礎・基本養成レベル（D3－）の生徒が10%未満となり、上級判定となる生徒が増える。 （2）ICTを活用することにより、個々の生徒に応じた指導を推進するとともに生徒のICT活用能力を育てる。 【活動指標】ICTを活用した授業等の推進するための教職員研修を2回以上実施する。	（年度末および適宜記載）	
生徒指導の充実	（1）校則にかなった服装を徹底させ、規律を守り、落ち着いた生徒を育成し、落ち着いた学校を浸透させる。 【活動指標】学期に2回程度、頭服指導を行い、日常においても指導を行う。 【成果指標】遅刻の回数が昨年度より20%減少 （2）生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう教育相談体制の充実に努めるとともに、生徒はもちろん、保護者・地域と連携し、いじめを許さない学校づくりに取り組む。 【活動指標】いじめ防止に関わるアンケートを学期に1回行い、日常から生徒指導、教育相談の機会を設け、いじめの早期発見に努める。 【成果指標】学校生活アンケートで「困ったことや心配事などを、先生や友達に相談することができる」の肯定的な意見が80%以上。 （3）交通マナー・ルールを守れる生徒を育成するとともに、交通事故がなくなるように取り組む。 【活動指標】 ・自転車安全指導を企画し、安全教育を行う。 ・毎月、期間を決めて街頭での交通指導を行う。 ・ヘルメット着用率の向上に取り組む。 【成果指標】ヘルメット着用率を昨年度より増加。		
キャリア教育の充実	（1）社会人として必要な態度・マナーを習得させ、将来にわたっての社会貢献を考えさせる。また、自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえのなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】進路ガイダンスや手厚い個別指導を行う。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格100%		

高等学校用

改善課題
（年度末に記載）

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1) 教職員一人ひとりのコンプライアンス意識をよりいっそう向上させる。 【活動指標】コンプライアンスミーティングを学期に1回実施する。 【成果指標】不適切事案の発生件数ゼロ 【活動指標】セルフチェックシート等を活用し、情報管理状況の点検を年1回以上実施する。 【成果指標】不適切事案の発生件数ゼロ (2) 教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させるとともに特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】教職員対象の人権講演会を年1回以上実施する。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】学校生活アンケートで「学校生活を送る中で、安心して学習することができる」の肯定的な意見が80%以上。 (3) 防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。 【活動指標】防災訓練等を年2回実施する。	（年度末および適宜記載）	
働きやすい職場環境づくり	(1) 総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・定時退校日に定時退校できた教職員の割合　100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合　100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合　100% 【成果指標】 (1)業務量の管理に関する目標(量の目標) ・1人当たりの月平均時間外労働時間　13 時間/月 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数　0人 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数　0人 (2)健康管理及び働きがいに関する目標(質の目標) ・1人当たりの年間休暇取得日数　21 日/年		
情報提供による信頼の構築	(1) 学校の教育活動や生徒の取組等について、積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・ホームページやインスタグラムの更新年50回以上。 ・授業公開、学校見学会等を年2回実施する。 【成果指標】 ・報道等での本校の取組報道　年3回以上		

	・学校見学会等への参加者数及び入学者数が昨年度より増加		
改善課題			
（年度末に記載）			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	（年度末に記載）

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	（年度末に記載）
学校運営についての改善策	（年度末に記載）